

2月18日(水) 本年度第30回(通算2765回)

「 RI 創立記念・アクト合同例会 」

担当/理事会・青少年委員会 18 : 30～釧路プリンスホテル

◆お客様と来訪ロータリアン

菊池吉史君、斎藤慎也君、小甲薫君、安田浩佑君、中村理恵子君、三原一浩君、中島裕君、小野寺亮太君、村上沙也加さん、益村優希君、平田拓郎君、三羽健太郎君以上12名

◆メーキャップ

2/16 釧路西RC

石井 東洋彦君、菊池 美恵子君、坂入 信行君、高橋 邦弘君、多田 洋平君、田野 竜之介君、田村 憲一郎君、中嶋 嘉昭君、中島谷 友一朗君、萩原 昭博君、平井 昌弘君、本間 明美君

◆出席報告【会員総数70名 免除5名 出席計算に用いた会員数70名】

本日の出席率 出席者32名 メーキャップ12名 出席率62.9%  
前々回の修正出席率 出席者30名 メーキャップ1名 出席率44.9%

◆ニコニコ献金

- ・松原先輩、今日の講演宜しくお願ひします ～萩原 昭博君、坂入信行君
- ・誕生日です。ありがとうございました ～足立 功一君
- ・結婚記念日、全然憶えていませんでした ～大友 淳君
- ・嫁に結婚記念日ありがとうございました ～大澤 恵介君
- ・ケーキありがとうございました ～長内 信辰君
- ・川村君、入会おめでとう ～高橋邦弘君、中嶋嘉昭君、中島谷友一朗君、村井順一君

◆会長挨拶

皆さん今晚は。先週は定款により休会ですので皆様とお会いするのは2週間ぶりです。本日は、川上 真一君が入会され、会員総数70名になりました。年度末まで4カ月有りますので引き続き会員増強に勤め、退会者を出さないよう努力していきたく思います。ロータリーの友1月号に掲載されました2500地区の14年度10月現在の会員数は、2291名一昨年同月より47名増えておりますが、年度末の会員数が大事ではないでしょうか。さて本日の例会はRI創立記念アクト合同例会です。RIの創立に関しましては皆様ご存じなのでこの場で、お話は致しませんが後ほど松原パスト会長に講話を頂きましてRI創立をお祝いしたいと思います。

◆幹事報告

- ・浜中RC様より2月例会プログラム・厚岸RC様より例会記録・北ローターアクトより1月例会報告、新入会員の報告が来てます。RI第2500地区ローターアクト第3ブロック春の交流会及び第2回ブロック会議の仮登録の案内がきております、こちらは、アクトの斎藤幹事からご報告いたします。
- ・高橋邦弘委員長の働きかけもと、今年度第2回家庭集会も各班期間中に完了して頂き感謝申しあげます、各班の報告者の皆様は報告書の提出をなるべく早めに高橋委員長か私の方にご提出願ひします。
- ・2月16日スタンプラリーで西クラブに会長はじめ高橋邦弘委員長・菊池委員長・田村会員・中嶋理事石井理事・本間委員長・平井委員長・菊池委員長・中島谷理事・田野副幹事・多田副幹事の12名で参加してまいりました。
- ・2015～2016年度版のロータリー手帳購入の御案内が届いております。購入申し込み書を回覧します。
- ・平成27年度全国中学校 体育大会第45回全国中学校 バトミントン大会並びに第46回北海道中学校バトミントン大会の開催にあたり、当クラブ会員の皆様方に大会のご周知と広告協賛金の願ひが来てます。
- ・毎年行なわれています、RI意義ある業績賞に北クラブとして、少年サッカー教室事業を申請させて頂きます。

最後に本日、執り行いました、第12回理事会におきまして、各理事に今回、提出した議題・議案のご理解を頂いたことを合わせてご報告して、幹事報告とさせて頂きます。



## 新入会員紹介

川村 真一 君

かわむら しんいち

釧路中央自動車（株）  
代表取締役



## RI 創立記念・アクト合同例会



松原久幸パスト会長

ロータリーの創立記念と言うことで、先ほどより萩原会長を始め、みなさんご存じの事と思います。1905年2月23日シカゴクラブから始まりました。何度も聞いておられると思いますので、重複する部分は省略しまして、皆さんが、あまり普段聞き慣れない部分をお話したいと思います。

ロータリーの目標も理念も素晴らしい組織だと思います。ポールハリスの言葉を借りると、同年代で同じようなボランティア組織は色々ありましたが、残ったのはロータリークラブだけであります。何故かという、他の組織にはない奉仕という理念を会員それぞれが守って作り上げ努力を続けてきたことが大きな要因では無いでしょうか。そんな中でも、ロータリー内で様々なトラブルがありました。まず、シカゴクラブ会長選出の際に、初代会長はシルベスター・シールというポールハリスの親友であります。2代目がR・ホワイト。本当は初代会長にポールハリスがなるべきでしょうが、ポールハリスは第3代目会長となりました。その後、3代目・4代目と続けて就任しましたが、4代目会長の途中で辞任致します。ポールハリスが辞任した後に4代目会長を引き継いだのがハリー・ダグラ。ロータリーソングを提唱した人です。それと同時に、非常に新入会員を入会させた人です。200名以上、新入会員を紹介したと記録に残っています。その後4代目会長、5代目会長、6代目会長に就任する時に親睦派と奉仕派と2つの大きな流れがあったわけです。親睦派の代表がラムジーと奉仕派の代表がチェス・リー・ペリーです。もの凄い論争が起き、最後には会長選挙で僅差でチェス・リー・ペリーが敗北します。この事は、国際ロータリーにとっては幸せなことでした。チェス・リー・ペリーはロータリークラブをもっと大きな組織しようと考えました。組織作りには卓越した人で、後にRIの事務総長を32年間も務めました。ポールハリスもチェス・リー・ペリーの功績を讃え、私に寄せられる功績の大半は、チェス・リー・ペリーによるものであると、自らの本に書いてあります。

もう一つは、大戦が始まるとロータリー発足はアメリカですので、当然、日本は敵国で除名をされます。しかし、日本のロータリアンは、外国語であるロータリークラブという名前を変えて、例えば水曜日に例会を開催している所は東京水曜会。木曜日は木曜会という形で続けていました。後に日本が国際ロータリーに復活する際、大きな役割を果たしました。昭和20年に終戦を迎え。その年に、日本のロータリークラブを作った、米山梅吉が亡くなります。後を追うように日本で初めてロータリアンとなった福島喜三次も亡くなります。国際ロータリーに日本の復帰を働きかける際に困難になってしまいました。その時、東京水曜会に柏原孫左衛門が北は北海道、南は九州まで当時の交通事情の

悪い中、列車に乗り全国のロータリークラブを調べ上げました。各地方のロータリークラブの半数の人達が昔のロータリーの規則を守り例会を開催して実績をまとめ、R Iに報告し、その他の外国人が推薦してくれたりして、日本は国際ロータリーに復帰することが出来るようになるわけで、色々な人達の努力により、今日のロータリークラブは存在しています。日本のロータリークラブは柏原さんの努力に讃辞をおくったと記録に残っております。柏原さんは質の向上と数の増加は、車の両輪であると考え、ロータリークラブの発展に努力をされました。単純にアメリカと日本のロータリアンを比べますと、当時のアメリカの人口が1億8000万近い人口。日本は9200万人。ロータリアンの数で比べますと、日本のロータリアンはアメリカの20分の1しか居ませんでした。ロータリーとは親睦と奉仕をテーマに社会に、どのように貢献していくかが大きな問題として残っています。

R Iの第58代の会長にリチャード・L・エバンスの談話に、ロータリーを発展させるためには、ポールハリスを偶像化してはいけません。ロータリーというものは一人で出来るものではない、一挙に盛り上がり出来るものでもない。多くの同士が長い年月を掛けて今日の形を作り上げたのである。ロータリーはポールハリスが提唱し作り上げ、組織力・行動力のあるチェス・リー・ペリーが大きな健老的な組織を作り上げ、アーサー・フレデリック・シェルドンがロータリーの哲学を導入し、ロータリー財団を作ったアーチ C. クランフが、実際のロータリー活動を進めロータリーの親交をはかっていき、世界にも珍しい世界最高の奉仕団体を作り上げていきました。これがロータリーの姿です。しかし、これからどうゆうかたちで、進めていくべきか？数の問題、質の問題をクリアしなければロータリー発展はありません。ロータリーの会員を増やすために、我々は何をすべきか？いつも家庭集會での話題になる、会員増強と退会防止であります。ロータリーが充実した例会を行い、ロータリーに入会して良かったと実感できなければ、ロータリーの発展は無いと考えます。ロータリーは他人の利益を考える信念に基づき行動していることを、多くの人に理解してもらい努力も必要ではないかと思えます。最近のロータリー事情は詳しくは解りませんが、これらの事は、ロータリーがこの世に続く限り変わらないと思えます。

私も入会20年以上経過しましたが、日常生活の中に奉仕の大切さを認識するようになりました。今も子どもたち相手に悪戦苦闘しておりますが、その中で未来を担う子ども達の育成を、老骨に鞭打ってやっております。

先日も、釧路にも難しい問題を抱えた子ども達がおります。先日も研修で市の子ども達の対策をしている指導員に来ていただき話をしてもらいましたが、こんなことがあるのだろうか？

と思うことが報告されました。その子ども学校へも行かず、母親と子ども3人いて、その子どもが幼い子どもの面倒をみている。その子に会って話をする時に、お土産に柿を持って行きましたが、その子は柿を見て、柿の食べ方が解らない。見たことが無い。そうゆう子どもが居るのです。今、子ども手当があるのに、子どもが学校へも行けない、食事も満足にとれない子どもが現実に居るのです。そのような子ども達を救うために私達一人一人が奉仕と言うことを、もう一度深く考えるべきではないでしょうか。その延長線上にロータリークラブという奉仕団体を活用しながら社会に貢献しなければ、ならないと考えております。難しい問題がたくさんあります。ロータリーの長い歴史のなかで、試行錯誤をしながら、現在のロータリーの姿が形成されてきました。我々も小さい力でも、みなが集まれば大きな力となります。ロータリー活動とは一人で出来るものではありません。みな力を結集してこそ社会へ貢献できると考えております。

今、私が、担当している子どもの問題につきましても、非常に悲惨な状況、新聞にもマスコミにも出てきません。現実に、問題を抱えた子ども達が大勢居ることを、皆さんに認識していただき。あえて、ロータリーとは直接関係有りませんが、本日は、釧路北ローターアクトの皆さんも居るので、これから、結婚し子どもを育てる時には、責任をもって育て慈しむ考え方が非常に大切だと思います。今は、子育てに悩んでいるお母さんがたくさんおられます。自分の育ってきた環境を子どもに還元していくことを考えながら子どもと接して行って欲しいと思います。社会を構成する上では非常に大切であると思います。現代は子どもの受難の時代に入っていると思います。連日マスコミで子どもが悲惨な事件に巻き込まれていると報じられていますが、人間が社会へ奉仕するという考え方をロータリーを通じて社会へアピールしていかなければならないと思います。